S級に定着してほぼ10年　やっと走れる地元のGI
鈴木庸之の想いがひしひしと伝わってくる

地元選手たちの紹介を始めます。諸橋愛（思いつくまま回顧録５話）、菊池岳仁（それいけ１１７期２話）はすでに取り上げたので、今回は鈴木庸之。

こちらが勝手に、鈴木はＳ級に上がって、今が第３期だと思っている。この話を本人にしたことがあるけど笑われただけ。表面に出ないことを含めると、もっと複雑なんだろうな。

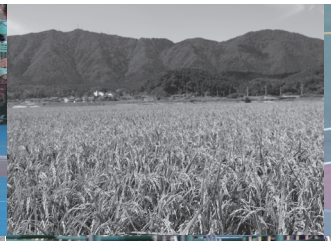
２００９年に初めてＳ級に上がったのは23歳のとき。やがて定着して、２０１２年の宇都宮でＦＩ初Ｖ。ぐいぐい強くなっていった、この時期が第１期。

翌年、１回目の事件が起きる。それまで使っていた自転車のメーカーが廃業。懸命に自転車探しをしていたけど、勝てないからやめたいと漏らしたこともあった。

そこから立ち直ったところが第２期。２０１５年の競輪祭で初のＧＩ出場。位置取りで脚を使い、最後にまくって仕留められるようになった。ヨコの動きもうまくなり、２０１８年には自在選手として完成してきた。

ところが２０１９年に入って、腰のヘルニアが発症。日常生活ができるように戻れるかどうかのレベルだったが、幸運な出会いもあったのだろう、夏から状況は変わり始める。復帰したのは暮れの12月。ここから現在までが第３期。「復調するには１年かかりますよ」と言っていたのに、昨年11月の競輪祭で初めてＧＩの決勝進出。

Ｓ級に在籍しながら、２０１１年から２０１５年までは寛仁親王牌の枠は回ってこなかった。地元記念を初めて走ったのも２０１７年と遅い。35歳の今、かける想いは誰にも負けない。本当にそう。１カ月以上前から伝わってくる。

▽弥彦競輪　寛仁親王牌
世界選手権記念トーナメント
地元選手プラス１　第１話

【新潟スポーツ　信氏　忠】